

平成 24 年 6 月 28 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行  
代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹  
(コード番号 : 8303 東証第一部)

## サラリーマンのお小遣いは 5 年ぶりに回復—「2012 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について ～若い世代のライフスタイルとお金に関する新ウェブサイト「ライフスタイル・ラボ」による情報発信の開始～

当行は、20 代から 50 代のサラリーマン約 1,000 人を対象にした「2012 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

また、1979 年以來 30 年以上続いているお小遣い調査関連の話題を中心に、若い世代を中心としたライフスタイルとお金に関する幅広い情報を提供するウェブサイト「ライフスタイル・ラボ」(<http://www.shinseibank.com/cfsg/>)を本日開設いたしました。

### 1. 「2012 年サラリーマンのお小遣い調査」の結果について

#### 「2012 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- \* 平均お小遣いは月額 39,600 円、昨年より 3,100 円のアップで 5 年ぶりに増加
- \* 一方お金への意識はシビアなまま。使わずに我慢する傾向が今年も上昇
- \* 昼食代は 510 円と 20 円の微増だが、飲み代は 680 円ダウンの 2,860 円と大幅減

2012 年の調査では、給与所得は昨年比マイナスとなり、生活実感としては全体的に厳しい年になったようです。しかしながら、内閣府発表の月例経済報告(2012 年 5 月)によると消費マインドは持ち直しており、同じ内閣府の景気ウォッチャー調査でも、景気の現状判断 DI は 2011 年 3 月の東日本大震災(震災)にてリーマンショックを超える勢いで下落した後は、徐々に再上昇の気配を見せており、景気の回復の兆しも少しずつ見え始めているようです。また、昨年は震災の年であり、家族や友人などの身近でかけがえのない人との「絆」の大切さを改めて感じた一年であったのではないのでしょうか。

サラリーマンのお小遣いの状況を見ると、家計の財布の紐も少しずつ緩み始めているのか、4 年連続で減少してバブル崩壊後最低となった昨年より 3,100 円アップし、2010 年のお小遣い額に近づく額まで回復しました。生活実感としては引き続き苦しい状況の中、飲み代などの抑えられるところは抑えつつも、国内・海外旅行などへの消費意向が強まっていることが見受けられます。生活防衛をしつつ、アフターファイブで同僚などと飲みに行くことを控えて、家族や友人などの大切な人との「絆」を大切にしているのかもしれない。

「サラリーマンのお小遣い調査」は、1979 年に株式会社レイク(当時)で始めて以来 30 年以上にわたる調査実績があり、ほぼ毎年、夏のボーナス支給時期を前に、20 代から 50 代のサラリーマンを対象として、昇給の有無やお小遣いの額などの懐事情を通じて、時代の移り変わりとともに変化する価値観を調査してきました。昨年度まで当行連結子会社の新生フィナンシャル株式会社(以下、新生フィナンシャル)が行っておりましたが、今回からは銀行本体にて実施することといたしました。

#### ■ サラリーマンの平均お小遣い額は 39,600 円、昨年より 3,100 円のアップで 5 年ぶりに増加。

2012 年調査の「サラリーマンの平均お小遣い額」は、昨年の 36,500 円から 3,100 円アップの 39,600 円となり、5 年ぶりに増加しました。厚労省発表の勤労統計調査によると、現金給与総額について、2010 年度は前年度比 0.5%アップと対前年度比で 4 年ぶりにプラスに転じましたが、昨年度は前年度比マイナス 0.3%と減少に転じました。ただし、今年の 2 月からは 0.1%のプラス、3 月は 0.9%のプラス、4 月は 0.2%のプラスと 3 カ月連続で上昇しており、また、前述のように景気も回復基調にあるなか、徐々に財布の紐が緩み始め、お小遣い額にも影響がおよんでいるのかもしれない。

また、30 年にわたる当調査からは、サラリーマンのお小遣い額が日経平均株価に追随する傾向が見られます。過去最高額は 76,000 円で、バブル期の 1990 年に記録。その後、上下はあったものの、ここ 2、3 年は 3 万円代後半から 4 万円代を推移しています。株価も震災直後は 1 万円前半から 8,000 円代まで落ち込み、その後も低迷を続ける中、株価との連動で考えれば、来年度以降のサラリーマンのお小遣い額の上昇も危ぶまれます。(別添 1「日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移」ご参照)

#### ■ 昼食の持参弁当の回数が初の減少。昼食代は 500 円を回復するも、飲み代はより減少傾向。

2005年以降、お小遣いの使い道として、ほぼすべての年代が一番にあげる「**昼食代**」。2001年には710円あった昼食代も、昨年はついに500円を切って、490円となりましたが、今回は少し持ち直して昨年から20円増の510円と500円台を回復しました。

一週間の昼食に占める「**持参弁当**」の回数は昨年より0.3回減って1.5回となり、2009年調査以来、初の減少となりました。引き続き外食の頻度は昨年から0.1回減少の0.9回と抑えつつも、購入した弁当や社員食堂の利用が0.1回増加しており、外食や持参弁当からシフトする傾向が見受けられます。

また、仕事後の1カ月当たりの**外食回数**は、昨年から0.5回減の2.4回となり、仕事が終わるとまっすぐ自宅へ帰るというアフターファイブの時間の使い方の質問への回答からも、外食回数が減少する要因が見られました。また、2009年には6,000円以上あった1回当たりの「**飲み代**」についても、昨年に続いて680円減の2,860円となり、ついに3,000円を切る結果となりました。長引くデフレ傾向の中で格安の居酒屋が当たり前となった状況や、居酒屋における「お通し代」の廃止傾向もみられることから、飲み代の減少に拍車をかけているようです。

今後の経済動向ですが、内閣府発表の月例経済報告で、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、国内外ともに景気が下押しされるリスクがあり、景気は不安定な状態が続いているとも言えることから、お小遣い額の本格的な回復にもしばらく時間がかかるかもしれません。

本調査の詳しい調査結果については、別添 1「日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移」、別添 2「2012年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

## **2. 若い世代のライフスタイルとお金に関する新ウェブサイト「ライフスタイル・ラボ」の立ち上げについて**

リーマンショック後にはスマート消費の傾向が生まれ、昨年の東日本大震災により家族や友人との絆の重要性が再認識されるなど、消費者の働き方や暮らし方に対する意識もここ数年で大きく変わりつつあります。特に若年層は、経済成長の低迷による雇用の減少や収入の伸び悩みなどの影響を直接的に受けていますが、そのなかでもシェアハウスやファストファッションの活用など、環境に適応した新しいライフスタイルを創造しています。若い世代のライフスタイルやお金に関する意識の変化についてお小遣い調査などを活用しながら把握し、有識者からの視点なども交えて「ライフスタイル・ラボ」にて提供することで、働く人たちの生活を考えるきっかけとなる情報を発信していきたいと考えております。

### **【ライフスタイル・ラボの主なコンテンツ】**

#### **■ 「サラリーマンのお小遣い調査」**

過去の「サラリーマンのお小遣い調査」結果は、本ウェブサイトにて統合して提供いたします。また、今後は従来のサラリーマンに加えて若者のお小遣い事情についても注目し、情報を発信していきます。なお、お小遣い調査は2011年度で30回目の節目を迎えました。そこで、これまでの調査結果を集約した「お小遣い調査30年白書」を、8月末を目処に発表する予定です。

#### **■ ライフスタイルコラム**

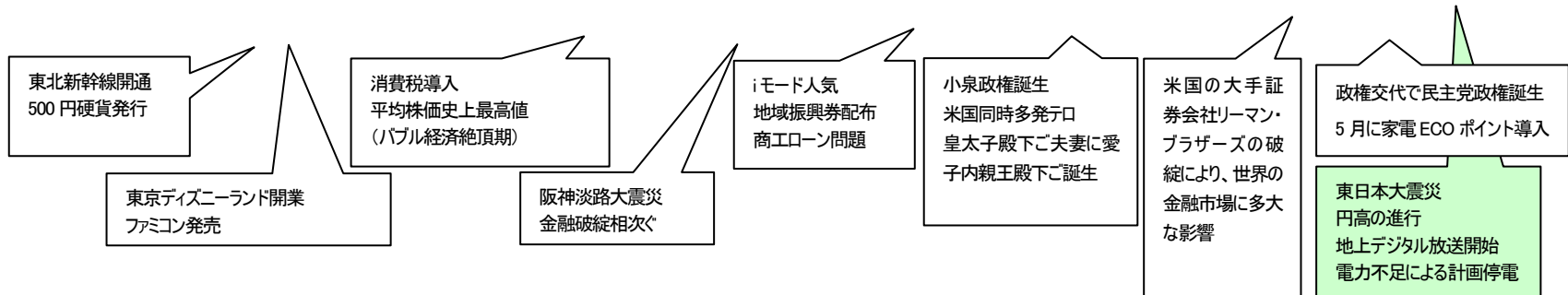
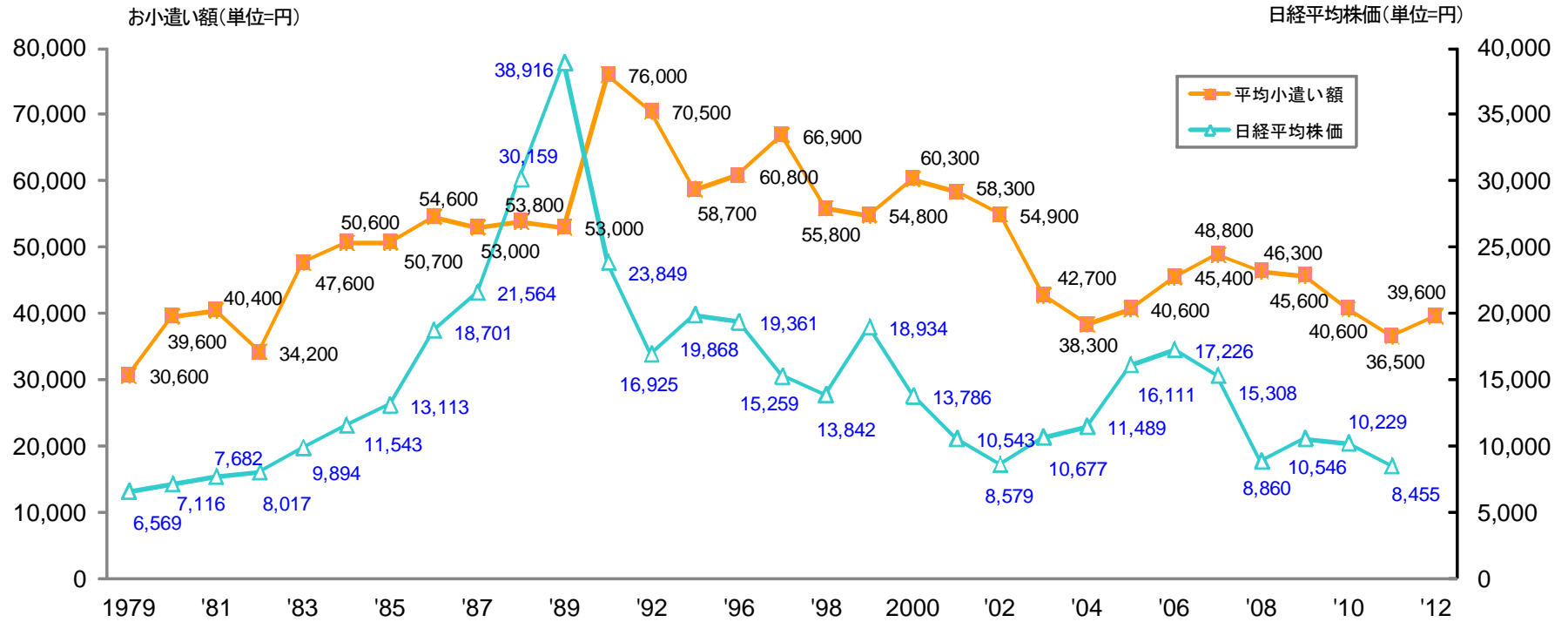
現代の若者のライフスタイルやお金に関する意識を、有識者の考察を交え、約2ヶ月に1回のペースで発信していく予定です。

#### **■ 金銭基礎教育「MoneyConnection®」(マネーコネクション)**

2006年より新生銀行グループにて実施している若年層向け金銭基礎教育プログラムに関する情報を提供いたします。今後、主にマネーコネクションにまつわるコラムや高校生のお金に対する意識調査などの情報を発信していく予定です。プログラムの実績などの詳細情報は、マネーコネクションのウェブサイト([moneyconnection.jp](http://moneyconnection.jp))をご覧ください。なお、マネーコネクションについては、若者の自立を支援する特定非営利活動法人「育て上げ」ネットと新生フィナンシャルが2006年に共同で開発いたしました。2012年度からは、当行が社会貢献活動の一環として「育て上げ」ネットを支援しており、共同でプログラムを展開しています。

以上

日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移(1979年～2012年)



※ 1978年以前と、1991年及び1993年、1994年については調査を実施しておりません。  
 ※ グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

## 新生銀行 「2012年 サラリーマンのお小遣い調査」

### 詳細レポート

#### サラリーマンのお小遣いは5年ぶりに回復

\* 平均お小遣いは月額 39,600 円、昨年比 3,100 円のアップで 5 年ぶりに増加

\* 一方、無理な出費はせず、使わずに我慢する傾向が引き続き増加

\* 昼食代は 510 円と 20 円の微増だが、飲み代は 680 円減の 2,860 円と調査史上最低額へ

- 本調査は 1979 年以来、30 年以上にわたり実施しています。(1991 年、1993 年、1994 年を除く)
- 時系列で「日経平均株価とお小遣い額の推移グラフ」を添付しています。ご参照ください。
- 2002 年以降の調査結果は、ウェブサイト「ライフスタイル・ラボ」よりご覧いただけます。  
( <http://www.shinseibank.com/cfsg/> )

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします。

新生銀行 IR・広報部 大高・江口  
Tel. 03-6880-8303 / Fax. 03-4560-1706

## <はじめに>

2011 年を振り返ると、東日本大震災の復興が進む中、7 月には欧州債務問題による円高の進行、9 月には台風 12 号などの大型の台風による被害、10 月にはタイの洪水によって多くの自動車、電子機器メーカーが被害を受けるなど、日本にとって災難の続く年でもありました。一方では、2011 年を表す漢字として「絆」が発表されたように、家族や友人などの身近でかけがえのない人との「絆」の大切さを改めて感じた一年であったのではないのでしょうか。

国内の経済の状況としては、日本経団連の調査では 2011 年の冬季賞与はプラスになったものの、厚生労働省の毎月勤労統計調査では 2011 年の給与所得は昨年比 0.3%のマイナスとなり、生活実感としては引き続き厳しい年になったようです。しかしながら、内閣府発表の月例経済報告（2012 年 5 月）によると消費マインドは持ち直しているとあり、同じ内閣府の景気ウォッチャー調査でも「景気の現状判断 DI」は 2011 年 3 月の東日本大震災の後にリーマンショックを超える勢いで下落した後は、徐々に再上昇の気配を見せており、景気回復の兆しも少しずつ見え始めているようです。

そんな状況の中、サラリーマンのお小遣いを見ると、家計の財布の紐も少しずつ緩み始めているのか、4 年連続で減少してバブル崩壊後最低となった昨年から 3,100 円アップの 39,600 円となり、2010 年のお小遣い額に近づくまで回復しました。昼食代の平均金額は 510 円と昨年から 20 円アップとはなりましたが、一方で外食の回数は減少し、1 回あたりの飲み代も 680 円減の 2,860 円と調査史上最低額になりました。生活実感としては引き続き苦しい状況の中、飲み代などの抑えられるところは抑えつつも、国内・海外旅行などへの消費意向が強まっていることが見受けられます。生活防衛をしつつ、アフターファイブで同僚などと飲みに行くことを控えて、家族や友人との「絆」を大切にしているのかもしれない。

今後の経済動向ですが、内閣府発表の月例経済報告で、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、国内外ともに景気が下押しされるリスクがあり、景気は不安定な状態が続いているとも言えることから、お小遣い額の本格的な回復にもしばらく時間がかかるかもしれません。

毎年恒例のサラリーマンお小遣い調査は本年より新生銀行に移り、新しいウェブサイト「ライフスタイル・ラボ」(<http://www.shinseibank.com/cfsg/>) から、今後も調査結果を発信していきます。また、昨年に引き続き、サラリーマン層とは別に、20 代から 30 代の若い世代の男女の調査結果「20 代～30 代のお小遣い事情」も特集しております。さまざまな情報を発信することで働く人たちの今後の生活を考えるきっかけにしたいと考えておりますので、ぜひ合わせてご覧ください。

### <調査設計>

- ◆ 調査時期 2012年4月23日、4月24日の2日間
- ◆ 調査方法 インターネットによる調査  
(専門の調査会社に依頼し、全国からサンプルを収集)
- ◆ サンプル数 合計2,000名(全国の男性サラリーマン約1,000名、20代から30代の女性社員、男性・女性パート・アルバイト約1,000名)
- ◆ サンプル内訳 (上段：人数 下段：%)

世代別		20代	30代	40代	50代	Total
男性 サラリーマン	実数	260	261	261	262	1,043
	比率	24.9%	25.0%	25.0%	25.1%	100%
女性 会社員	実数	125	125	-	-	268
	比率	46.6%	46.6%	-	-	100%
男性 パート・アル バイト	実数	261	262	-	-	523
	比率	49.9%	50.1%	-	-	100%
女性 パート・アル バイト	実数	133	133	-	-	266
	比率	50.0%	50.0%	-	-	100%

未既婚		未婚	既婚	Total
男性 サラリーマン	実数	438	605	1,043
	比率	42.0%	58.0%	100%
女性 会社員	実数	179	89	268
	比率	66.8%	33.2%	100%
男性 パート・アル バイト	実数	493	30	523
	比率	94.3%	5.7%	100%
女性 パート・アル バイト	実数	129	137	266
	比率	48.5%	51.5%	100%

子供の有無		子供なし	子供あり	Total
男性 サラリーマン	実数	593	450	1,043
	比率	56.9%	43.1%	100%
女性 会社員	実数	219	49	268
	比率	81.7%	18.3%	100%
男性 パート・アル バイト	実数	505	18	523
	比率	96.6%	3.4%	100%
女性 パート・アル バイト	実数	173	93	266
	比率	65.0%	35.0%	100%

パートナー就業		共働き ・パート	無職/ 専業主婦	Total
男性 サラリーマン	実数	321	284	605
	比率	53.1%	46.9%	100%

※「パートナー就業状況」の%では母数は605人(既婚者総数)

世帯年収		300万円 未満	300~500万 円未満	500~700万 円未満	700~900万 円未満	900~1500万 円未満	1500万円 以上	Total
男性 サラリーマン	実数	142	319	260	142	159	22	1,043
	比率	13.6%	30.6%	24.9%	13.6%	15.2%	2.1%	100%

- ★ 表・グラフ内の数字は、特に注記がない場合は全て円です。
- ★ 調査対象のサンプルは毎年異なります。
- ★ 表の緑の網掛けは、昨年度より追加調査を行っている男女20代~30代の男女(約1,000名)の対象者となります。

## <調査結果の概要>

- ◆ 2012年のサラリーマンの平均お小遣い額は5年ぶりに回復して39,600円。昨年より3,100円の増加。

設問：あなたの1ヶ月のお小遣いはいくらですか？（昼食代含む） →P.6

- ◆ お小遣いは増えるも、昇給ありの減少傾向は止まらず。2009年以降は昇給あり・なしの差が拡大。

設問：この一年（2010年4月～2011年3月）の間に昇給はありましたか？ →P.9

- ◆ 理想のお小遣い額は現実のお小遣い額よりも増加し67,200円。理想と現実のギャップがさらに開く。

設問：あなたが理想とする一カ月分のお小遣いはいくらですか？（昼食代含む） →P.10

- ◆ 日常生活は「苦しい」派が引き続き過半数以上。40代、50代での「苦しい」感はより強い。

設問：お小遣い面からみて、この一年のあなたの日常生活はいかがですか？ →P.11

### ■□ 20代～30代のお小遣い事情 □■

お小遣い額は1,600円増の32,100円とやや回復したが、女性は微増で引き締め傾向。

昇給ありは引き続き減少して、ガマンが続く20代～30代。 →P.12

- ◆ 1回の昼食代は20円アップの510円となり500円代を回復。一方、持参弁当の割合は減少し、購入した弁当、社員食堂など別の方法にシフト。

設問：あなたの昼食代は平均すると1回いくらですか？

あなたの平均的な一週間の昼食（勤務日）の内訳はどのような感じですか？ →P.13

- ◆ 仕事後の月間外食平均回数は0.5回減の平均2.4回。1回の飲み代は調査史上最低の2860円に。

設問：仕事が終わった後、一ヶ月に平均何回くらい外で飲食をしますか？

あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？ →P.14

### ■□ 20代～30代の昼食&アフターファイブ事情 □■

引き続き昼食代は低価格を維持。弁当男子のブームが去る？20代～30代男性。

女性パート・アルバイト層のアフターファイブの飲み代は1回1,500円以下へ →P.15

- ◆ お小遣いが足りなくなると、使わずに我慢する傾向が去年よりもさらに強まる。他の手段を用いて補てんする傾向も同時に弱まり、無理な消費は控える傾向へ

設問：お小遣いが足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？ →P.16

### ■□ 20代～30代のお小遣いが足りない場合のやりくり事情 □■

基本は我慢。でも足りなくなればシフトを追加？ 汗を流して頑張るパート・アルバイト層 →P.17

- ◆ お小遣いの使い道で必要不可欠なものの1位は「昼食代」、2位は「趣味の費用」で前回と変わらず。嗜好品は3位から7位に低下し、前回7位だった携帯電話代が4位に

設問：お小遣いの使い道として、必要不可欠なものは何ですか？ →P.18

- ◆ 今後お金をかけたいもののトップは「貯金したいお金」(38.8%)。前回から選択率が増えたのは、健康・リラクセスにかけるお金(2.8%増)、国内旅行にかけるお金(2.3%増)、海外旅行にかけるお金(1.5%増)  
設問：お小遣いの使い道として、今後増やしたいものは何ですか？ →P.19~20

■□ 20代~30代のお小遣いの使い道事情 ~必要不可欠なもの~ □■

必要不可欠な使い道として必要性が高まる携帯電話代と、嗜好品離れの進む20代~30代。また、家族への配慮も忘れない女性パート・アルバイト層 →P.21

■□ 20代~30代のお小遣いの使い道事情 ~今後お金をかけたいもの~ □■

趣味の充実と自分の教養に投資をしたい男性パート・アルバイト層。  
ファッションや美容にお金をかけたい一方、募金もしっかり忘れない女性パート・アルバイト層 →P.22



**【サラリーマンのお小遣い額】**
**設問： あなたの1ヶ月のお小遣いはいくらですか？（昼食代含む）**
**— 2011年のサラリーマンの平均お小遣い額は、5年ぶりに回復し39,600円に。昨年より3,100円の増加 —**

1か月のお小遣い額		2008年4月	2009年4月	2010年4月	2011年4月	2012年4月	前年からの増減
<b>全体</b>		<b>46,300</b>	<b>45,600</b>	<b>40,600</b>	<b>36,500</b>	<b>39,600</b>	<b>3,100</b>
世代別	20代	51,700	45,600	44,500	41,400	41,100	-300
	30代	40,700	47,300	40,100	34,200	39,400	5,200
	40代	44,100	43,200	38,500	33,500	35,500	2,000
	50代	48,700	46,200	39,400	36,900	42,300	5,400

今年の調査では、サラリーマンの1カ月の平均お小遣い額は「**39,600円**」となり、2007年の48,800円から下がり続けてきたお小遣いも5年ぶりに回復しました。

お小遣い額はバブル期、日経平均株価のピークを記録した1989年の翌年の76,000円をピークに、その後の株価の下落と連動するかのようにお小遣い額も下降傾向が続き、2004年には38,300円とバブル期から半減しました。その後2005年から3年間の回復基調ののち、2007年から昨年までは一転して4年連続の減少となり、ついに4万円を切ってバブル崩壊後最低となりましたが、今年は反転して増加してやっと回復の兆しも見えてきました。それでもバブル崩壊後のワースト3位の低水準となっています。

今年の調査結果の背景として考えられるのは、内閣府発表の月例経済報告（平成24年5月）によると、2012年1月期から3月期の実質GDP（国内総生産）の成長率は、民間企業設備がマイナスに寄与したものの、民間最終消費支出、民間在庫品増加、公的固定資本形成、政府最終消費支出、財貨・サービスの純輸出（輸出－輸入）がプラスに寄与したことなどから、前期比で1.0%増（年率4.1%増）となり、3四半期連続のプラスとなっています。個人消費は「エコカー補助金等の政策効果もあって、緩やかに増加しており、消費者マインドは持ち直している」とあり、回復基調となっています。また、景気ウォッチャー調査によると、「景気の現状判断DI」は2011年3月の震災にてリーマンショックを超える勢いで下落したあとは、徐々に再上昇の気配を見せ、今年のお小遣い調査を実施した2012年3月、4月はついに水準値の50を超え、景気回復の兆しが見えました。こういった震災からの復興基調がお小遣い値上げの意識に影響したのかもしれませんが。

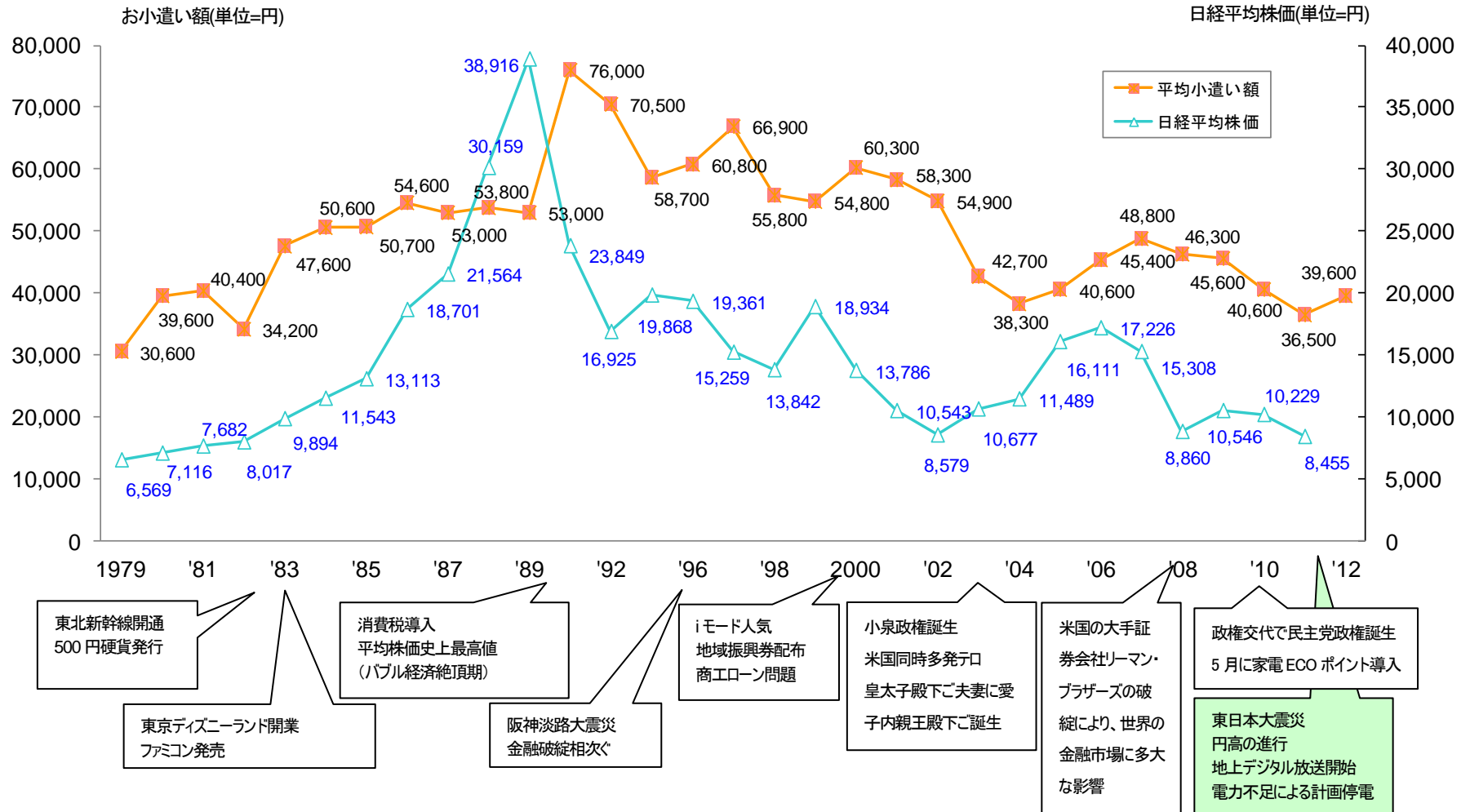
お小遣い金額を年代別でみると、2年連続でお小遣い額のトップに君臨していた20代に代わり、50代が42,300円でトップに躍り出ました。増えた額も50代がトップとなっています。一方、30代から50代まで昨年から金額が上がっていますが、20代のみほぼ横ばい（微減）となっていることが今年の特徴です。これは「この一年の間に昇給はありましたか？」の質問で20代が最も昇給無し割合が増えていることも影響しているのかもしれませんが。

1か月のお小遣い額		2011年4月	2012年4月	前年からの増減
未既婚	未婚	45,700	48,200	2,500
	既婚	30,800	33,300	2,500
子供有無	いる	30,600	31,000	400
	いない	42,500	46,100	3,600
主婦就業	共働き	31,100	35,400	4,300
	専業主婦	30,400	31,000	600
昇給有無	あり	40,200	43,600	3,400
	なし	33,800	36,800	3,000
居住地	首都圏	42,900	45,400	2,500
	関西圏	34,700	36,000	1,300
	東海圏	38,100	40,300	2,200
	北海道	31,000	25,900	-
	東北		33,900	
	中部・甲信越・北陸圏	31,300	37,000	5,700
	中国・四国圏	31,400	33,200	1,800
九州・沖縄圏	34,600	38,900	4,300	

地域別では、北海道のお小遣いが最低額の25,900円となっており、最高額である首都圏との差は19,500円となっています。

来年度以降のお小遣い額の先行きについては、前述の内閣府発表の月例経済報告で今後の見通しについて、「復興需要等を背景に、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、欧州政府債務危機を巡る不確実性や、これらを背景とした金融資本市場の変動、海外景気の下振れ等によって、我が国の景気が下押しされるリスクがあり、また電力供給の制約や原油高の影響、さらには、デフレの影響等にも注意が必要である」と分析しています。景気回復の動きが確かなものになることが期待されるものの、このようにまだ景気は不安定な状態が続いているとも言えることから、お小遣い額の本格的な回復にもしばらく時間がかかるかもしれません。

日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移(1979年～2012年)



日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移(1979年～2012年)

※ 1978年以前と、1991年及び1993年、1994年については調査を実施していません。  
 ※ グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

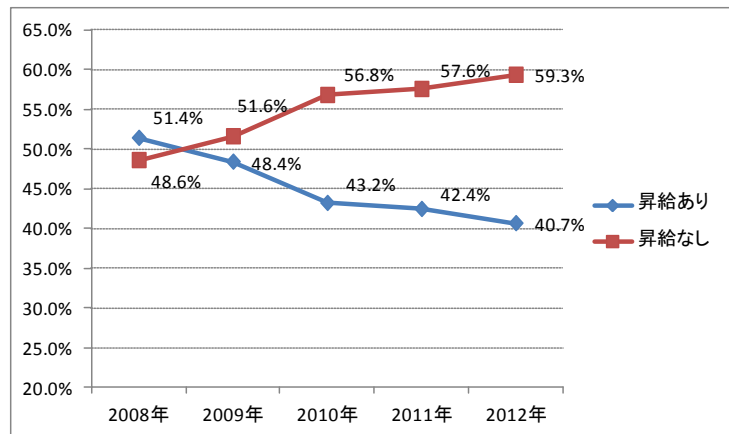
**【サラリーマンの昇給状況】**

設問： この一年（2011年4月～2012年3月）の間に昇給はありましたか？

— お小遣いは増えるも、昇給ありの減少傾向は止まらず。2009年以降は昇給のあり・なしの差が拡大。 —

昇給の状況		2011年4月		2012年4月		前年からの増減	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
全体		42.4%	57.6%	<b>40.7%</b>	<b>59.3%</b>	-1.8%	1.8%
世代別	20代	53.9%	46.1%	<b>45.6%</b>	54.4%	<b>-8.3%</b>	8.3%
	30代	54.3%	45.7%	50.2%	49.8%	-4.1%	4.1%
	40代	38.4%	61.6%	37.2%	62.8%	-1.2%	1.2%
	50代	23.3%	76.7%	29.8%	70.2%	6.5%	-6.5%
居住地	首都圏	44.6%	55.4%	39.8%	60.2%	-4.7%	4.7%
	関西圏	39.2%	60.8%	45.5%	54.5%	6.2%	-6.2%
	東海圏	50.4%	49.6%	<b>50.0%</b>	50.0%	-0.4%	0.4%
	北海道	34.4%	65.6%	40.0%	60.0%	5.6%	-5.6%
	東北						
	中部・甲信越・北陸圏	43.2%	56.8%	37.5%	62.5%	-5.7%	5.7%
	中国・四国圏	42.3%	57.7%	37.2%	62.8%	-5.1%	5.1%
九州・沖縄圏	42.9%	57.1%	<b>30.4%</b>	69.6%	-12.5%	12.5%	

5年ぶりに回復したお小遣い額ですが、一方「昇給あり」の割合の減少傾向は続いており、昨年の42.4%から40.7%へ1.8%減少しました。また、経年では2008年までは「昇給あり」の割合が高かったものの、2008年に起きたリーマンショックの影響か、2009年以降は「昇給無し」と逆転し、それ以降はその差が広がっています。



年代別でみると、年代があがるにつれ「昇給あり」の割合は減っていく傾向があるのですが、今年は20代の「昇給あり」の比率が大幅に減少しており、若年層は年収が伸び悩む状況で、お小遣い額にも反映できない状況にあるのかもしれない。

地域別の「昇給あり」率は、昨年に続き、東海圏の50%が地域別のトップとなっており、次いで関西圏の45.5%、北海道・東北圏の40%となっていますが、九州・沖縄圏では30.4%と昨年から12.5%もの大幅な減少となっています。

前述の内閣府発表の月例経済報告での今後の見通しのよう、景気は不安定な状態が続いているとも言えることから、安定して昇給する環境が整うにはしばらく時間がかかるかもしれません。

**【サラリーマンの理想のお小遣い】**
**設問： あなたが理想とする一カ月分のお小遣いはいくらですか？（昼食代含む）**
**— 理想のお小遣い額は現実のお小遣い額よりも増加。理想と現実のギャップがさらに開く —**

理想のお小遣い		2008年4月	2009年4月	2010年4月	2011年4月	2012年4月	前年からの増減	理想と現実の差
<b>全体</b>		<b>71,600</b>	<b>72,900</b>	<b>61,300</b>	<b>61,300</b>	<b>67,200</b>	<b>5,900</b>	<b>27,600</b>
世代別	20代	77,800	68,100	65,100	72,300	70,100	-2,200	29,000
	30代	65,400	74,100	61,700	59,100	68,000	8,900	28,600
	40代	69,100	76,000	58,700	52,700	66,600	13,900	31,100
	50代	74,100	73,200	59,700	61,300	64,000	2,700	21,700

理想のお小遣いの平均額は67,200円と前回の61,300円から5,900円の増加となり、実際のお小遣いの増加額の3,100円よりも増えたため、理想額と現実額の差は27,600円と、前回（24,800円差）からさらにその差が広がる結果となりました。

年代別で見ると、理想額の増加が大きかったのは40代で昨年よりも13,900円増となりました。しかし、現実のお小遣いは年代別で一番低い35,500円のため、理想のお小遣いにその不満が表れているのかもしれませんが、一方、20代では唯一前回より理想額が2,200円減っており、元々理想額が他の年代に比較して高いということもありますが、現実のお小遣いと同様にその理想額も控えめな傾向が出ています。これは、19ページの「お小遣いの用途のうち、今後お金をかけたいもの」の選択率の合計が昨年比83%と減少しており、昨今のスマート消費の表れとも見受けられますが、消費意欲が落ちているとも読み取れることから、理想額に反映しているのかもしれませんが。

また、地域別では、実際のお小遣いと同様に、首都圏がトップで76,500円、最低額は北海道の48,500円となっています。昨年からの増額が大きかったのは関西の67,200円で、昨年から15,100円の増加となっています。

理想のお小遣い		2011年4月	2012年4月	前年からの増減	理想と現実の差
未既婚	未婚	77,800	78,500	700	30,300
	既婚	51,100	59,000	7,900	25,700
子供有無	いる	50,900	57,000	6,100	26,000
	いない	72,000	74,900	2,900	28,800
主婦就業	共働き	52,300	57,800	5,500	22,400
	専業主婦	49,800	60,400	10,600	29,400
昇給有無	あり	61,400	67,500	6,100	23,900
	なし	61,300	67,000	5,700	30,200
居住地	首都圏	76,800	76,800	0	31,400
	関西圏	52,100	67,200	15,100	31,200
	東海圏	54,400	66,300	11,900	26,000
	北海道	54,100	48,500	-	
	東北		53,600		
	中部・甲信越・北陸圏	47,800	57,000	9,200	20,000
	中国・四国圏	65,900	60,500	-5,400	27,300
九州・沖縄圏	51,100	61,500	10,400	22,600	

**【サラリーマンのお小遣いのゆとり実感】**
**設問： お小遣い面からみて、この一年のあなたの日常生活はいかがですか？**
**— 日常生活は「苦しい」派が引き続き過半数以上。40代、50代での「苦しい」感はより強い状況 —**

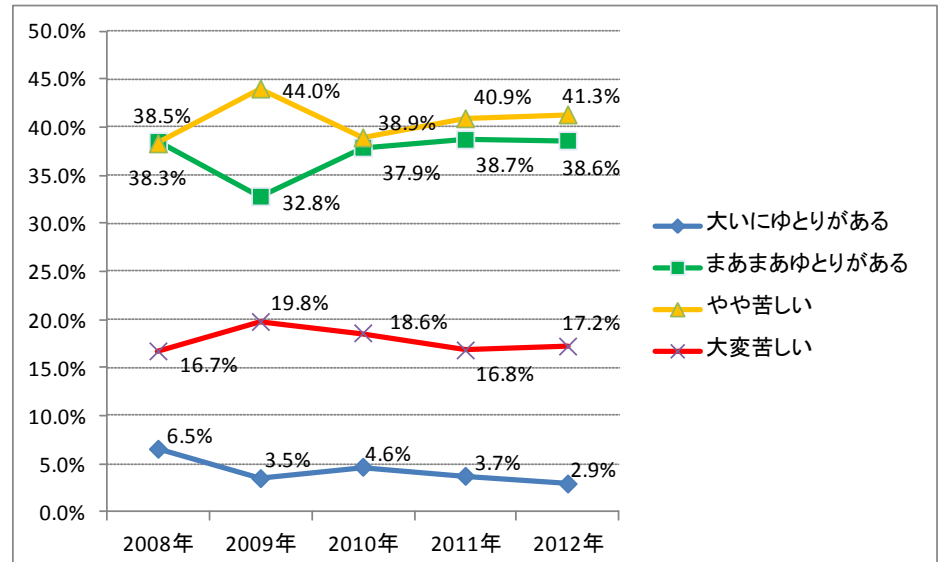
お小遣い面からみて、この一年間の日常生活のゆとり実感を尋ねた質問では、「ゆとりがある」人が41.5%に対して、過半数以上の58.5%が「苦しい」と答えており、ほぼ昨年と同じ傾向が続いています。2008年からのデータでも全体的に大きな変動はありません。

年代別に見てみると、20代では53.3%が「ゆとりがある」派で、年代別では唯一過半数を超えています。年代が上がるにつれ、苦しい派が増えていく傾向にあります。また、30代が唯一「ゆとりがある」派が昨年に比べて増加しています。

**地域別**では、「ゆとりがある」割合が高いのは、東海圏の46%、次いで首都圏の43.5%となっています。反対に九州・沖縄では35.3%、中国・四国では36%と、10%以上の地域差が出ています。

もっともゆとりを感じている東海圏では、物価は全国平均を下回り4位（1位：首都圏、2位：関西圏、3位：中国・四国圏、4位：東海圏／平成23年平均消費者物価地域差指数）と比較的低い一方で、給料は首都圏について2位（1位：首都圏、2位：東海圏、3位：関西圏／勤労統計調査全国調査）と高く、物価の低さの割には収入が高いことが見られることから、他の地域に比べてややゆとりを感じられる状況にあるのかもしれません。

お小遣いにおけるゆとり度		2012年4月		前年からの増減	
		ゆとりがある	苦しい	ゆとりがある	苦しい
<b>全体</b> ゆとりvs苦しい		<b>41.5%</b>	<b>58.5%</b>	-0.9%	0.8%
世代別	20代	53.3%	46.7%	-3.7%	3.6%
	30代	43.6%	56.4%	2.5%	-2.5%
	40代	31.4%	<b>68.6%</b>	-0.4%	0.3%
	50代	37.8%	62.2%	-1.8%	1.7%
居住地	首都圏	43.5%	56.5%	-4.2%	4.2%
	関西圏	41.2%	58.8%	8.5%	-8.5%
	東海圏	<b>46.0%</b>	54.0%	-1.9%	1.9%
	北海道	40.9%	59.1%	3.8%	-3.8%
	東北				
	中部・甲信越・北陸圏	40.3%	59.7%	-0.3%	0.3%
	中国・四国圏	36.0%	<b>64.0%</b>	-4.3%	4.3%
九州・沖縄圏	<b>35.3%</b>	<b>64.7%</b>	-9.3%	9.3%	



\*2008年からの状況（4段階）

**■□ 20代～30代のお小遣い事情 □■**

～ お小遣い額は1,600円増の32,100円とやや回復したが、女性は微増で引き締め傾向。  
 昇給ありは引き続き減少して、ガマンが続く20代～30代 ～

昨年から調査を開始した男女20代～30代の毎月のお小遣い額は、1,600円増の**32,100円**となりました。男性サラリーマン全体平均とのお小遣い額の差は、昨年の6,000円から7,500円に広がっています。

**男女差**では、男性に比べて女性のお小遣いは微増（女性会社員で+900円）となっており、特に女性パート・アルバイト層は世代別で一番低い状況が続いています。「お小遣いの使い道のうち減ったものと増えたもの」の回答によると、女性は男性に比べて支出項目が減っているため、引き続き引き締め傾向が続いているようです。

**理想のお小遣い**と現実との差も、昨年の22,600円から23,400円に若干差が広がりました。女性パート・アルバイト層は理想額も控えめで、昨年よりも3,900円減で、高望みせず、より現実的に理想のお小遣いを考えているのかも知れません。

お小遣い額		2008年4月	2009年4月	2010年4月	2011年4月	2012年4月	前年からの増減
<b>全体</b>		-	-	-	<b>30,500</b>	<b>32,100</b>	<b>1,600</b>
世代別	男性会社員20～30代	46,200	46,500	42,300	37,800	40,200	2,400
	女性会社員20～30代	-	-	-	38,600	39,500	900
	男性パート・アルバイト20～30代	-	-	-	24,300	26,300	2,000
	女性パート・アルバイト20～30代	-	-	-	20,000	20,000	0

理想のお小遣い額		2008年4月	2009年4月	2010年4月	2011年4月	2012年4月	前年からの増減	理想と現実の差
<b>全体</b>		-	-	-	<b>53,100</b>	<b>55,500</b>	<b>2,400</b>	<b>23,400</b>
世代別	男性会社員20～30代	71,600	71,100	63,400	65,700	69,100	3,400	28,900
	女性会社員20～30代	-	-	-	53,700	61,200	7,500	21,700
	男性パート・アルバイト20～30代	-	-	-	47,200	49,500	2,300	23,200
	女性パート・アルバイト20～30代	-	-	-	38,800	34,900	-3,900	14,900

次に**昇給の状況**ですが、「昇給あり」の割合は昨年に比べて3.9%減少して27.5%となりました。

唯一、男性会社員がサラリーマン層の平均よりも高くなっていますが、特にパート・アルバイト層の「昇給あり」割合は低い状況が続いています。男性パート・アルバイト層は昨年に引き続き「昇給あり」の割合が10%未満に留まり、特に女性パート・アルバイトは昨年に比べて7.1%「昇給あり」の割合が低くなっていて、サラリーマン層に比べてこの層の給与（時給）の伸び悩みが顕著に表れています。

昇給の有無		2011年4月		2012年4月		前年からの増減	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
<b>全体</b>		31.3%	68.7%	27.5%	72.5%	-3.9%	3.9%
世代別	男性会社員20～30代	54.1%	45.9%	47.9%	52.1%	-6.2%	6.2%
	女性会社員20～30代	38.4%	61.6%	34.0%	66.0%	-4.4%	4.4%
	男性パート・アルバイト20～30代	9.5%	90.5%	9.9%	90.1%	0.4%	-0.4%
	女性パート・アルバイト20～30代	22.5%	77.5%	15.4%	84.6%	-7.1%	7.1%

お小遣いからみた**生活のゆとり度**ですが、昨年とほぼ同等の「ゆとりがある」38.9%、「苦しい」61.1%となりました。

前述のように実際のお小遣い金額は厳しい状況にあり、比較的男性のほうが「大変苦しい」とする割合が高い傾向があります。特に、男性パート・アルバイト層では「苦しい」と回答している割合は71.5%を占めており、会社員と比較してパート・アルバイト層がゆとりを実感するには程遠い状況が続いているのかもしれない。

		2012年4月				前年からの増減			
		大いにゆとりがある	まあまあゆとりがある	やや苦しい	大変苦しい	大いにゆとりがある	まあまあゆとりがある	やや苦しい	大変苦しい
<b>全体</b>		3.2%	35.6%	42.0%	19.2%	-0.3%	0.7%	0.0%	-0.4%
<b>全体 ゆとりvs苦しい</b>		38.9%		<b>61.1%</b>		0.4%		-0.4%	
世代別	男性会社員20～30代	3.8%	44.6%	37.7%	13.8%	-2.4%	1.8%	0.3%	0.3%
	女性会社員20～30代	2.6%	44.4%	42.9%	10.1%	-1.3%	-3.7%	3.4%	1.5%
	男性パート・アルバイト20～30代	3.6%	24.9%	42.4%	29.1%	2.1%	2.8%	-4.6%	-0.2%
	女性パート・アルバイト20～30代	1.9%	30.5%	48.5%	19.2%	0.3%	-1.3%	5.1%	-4.1%
ゆとりvs苦しい	男性会社員20～30代	48.5%		51.5%		-0.6%		0.6%	
	女性会社員20～30代	47.0%		53.0%		-4.9%		4.9%	
	男性パート・アルバイト20～30代	28.5%		<b>71.5%</b>		<b>4.8%</b>		-4.8%	
	女性パート・アルバイト20～30代	32.3%		67.7%		-1.0%		1.0%	

**【サラリーマンの昼食代と一週間のランチの内訳】**

設問： あなたの昼食代は平均すると1回いくらですか？（弁当持参時を除く）  
 あなたの平均的な一週間の昼食（勤務日）の内訳はどのような感じですか？

— 1回の昼食代は20円アップの510円となり500円代を回復。

— 一方、持参弁当の割合は減少し、購入した弁当、社員食堂など別の方法にシフト —

昼食代		2008年4月	2009年4月	2010年4月	2011年4月	2012年4月	前年からの増減
<b>全体</b>		<b>570</b>	<b>630</b>	<b>500</b>	<b>490</b>	<b>510</b>	<b>20</b>
世代別	20代	560	610	540	460	530	70
	30代	560	660	480	500	530	30
	40代	530	560	470	480	510	30
	50代	630	680	510	520	490	-30
居住地	首都圏	660	630	590	540	560	20
	関西圏	550	650	520	510	550	40
	東海圏	510	490	470	440	480	40
	北海道			420	470	480	10
	東北						
	中部・甲信越・北陸圏	490	650	500	460	450	-10
	中国・四国圏			450	420	520	100
九州・沖縄圏			420	470	400	-70	

お小遣いの使い道として欠かせない**昼食代**。2001年には710円あった昼食代も、2007年に600円台から500円代へと落ち込み、その後500円台後半で推移したのち、昨年はついに500円を切りましたが、今年は少し持ち直して20円増の**510円**と500円台を回復しました。**世代別**でもほぼ横ばい傾向で、20代が70円増、30代と40代が30円増となっていますが、50代は唯一減少し30円減の490円となっています。**地域別**で大きく上昇したのは中国・四国で昨年比100円増の520円。逆に減ったのは九州・沖縄で70円減の400円となりました。今や低価格ランチは定番となったことで、一回当たりの昼食代も500円前後で推移しているのかもしれませんが。

昼食代は引き続き500円前後で推移する中、一週間の昼食の内訳はどのように変わったのでしょうか。昨年増加した**持参弁当回数**は、0.3回減少して1.5回となりました。

		2012年4月						前年からの増減					
		外食	持参弁当	購入した弁当	社員食堂	出前、デリバリーなど	その他	外食	持参弁当	購入した弁当	社員食堂	出前、デリバリーなど	その他
<b>全体</b>		<b>0.9</b>	<b>1.5</b>	<b>1.4</b>	<b>1.2</b>	<b>0.2</b>	<b>0.2</b>	<b>-0.1</b>	<b>-0.3</b>	0.1	0.1	-	<b>-0.1</b>
世代別	20代	0.9	1.5	1.6	1.1	0.1	0.2	-0.0	-0.5	0.2	-0.3	-	0.0
	30代	0.9	1.5	1.5	1.1	0.2	0.3	-0.2	-0.5	0.3	0.3	-	-0.1
	40代	1.0	1.6	1.3	1.0	0.2	0.2	-0.0	0.0	-0.0	-0.1	-	-0.2
	50代	0.9	1.5	1.1	1.4	0.2	0.2	-0.2	-0.3	-0.2	0.4	-	-0.1
居住地	首都圏	1.2	1.3	1.4	1.1	0.1	0.1	-0.2	0.2	-0.0	-0.1	-	-0.2
	関西圏	1.1	1.5	1.5	1.1	0.2	0.2	-0.2	-0.2	0.5	0.0	-	-0.3
	東海圏	0.8	1.1	1.2	1.9	0.3	0.4	0.1	-0.7	-0.0	0.1	-	0.2
	北海道												
	東北												
	中部・甲信越・北陸圏	0.7	2.5	0.9	1.1	0.2	0.3	-0.1	0.5	-0.2	-0.1	-	0.0
	中国・四国圏	0.8	1.3	1.6	1.0	0.2	0.6	-0.0	-0.7	0.3	0.1	-	0.1
九州・沖縄圏	0.6	2.0	1.3	1.0	0.2	0.2	-0.4	-0.5	-0.4	0.3	-	-0.0	

（\*平日勤務日の昼食回数の内訳）

**年代別**では特に20代、30代で減少傾向にあり、購入したお弁当にシフトしつつあるようです。**地域別**でも持参弁当回数の減少傾向が見られ、東海、北海道・東北、中国・四国での減少傾向が強くなっています。全体としては持参弁当や外食の回数を減らしつつ、コンビニ等で栄養バランスのとれたお弁当が気軽に手に入れられるようになったことや、タニタ食堂が注目を集めたように、社員食堂を見直すなどのさまざまな方法を活用するスタイルに変化しているのかもしれませんが。



**【サラリーマンのアフターファイブ】**

設問： 仕事が終わった後、一ヶ月に平均何回くらい外で飲食をしますか？  
 あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

— 仕事後の月間外食平均回数は0.5回減の平均2.4回。1回の飲み代は調査史上最低の2,860円に。 —

仕事後の月間外食回数は、昨年から0.5回減少して、2.4回となり2007年の3.9回以降、減少傾向が続く結果となりました。

また、1回あたりの飲み代も減少が続いており、昨年から680円ダウンして2,860円となり、1999年から調査を始めた飲み代も調査史上最低額となりました。2009年には5,170円だった飲み代もわずか3年余りで2,310円も下がっています。引き続き、夜の外食の回数も控え、1回あたりの飲み会でも節約をしようとする傾向がみられます。

年代別で比較すると、外食回数が多いのは20代の3.1回ですが、昨年から0.7回減り、飲み代の単価も750円下げているので、外での飲食を控える傾向は他の年代よりも強いようです。同様に全ての年代において、外食回数も1回あたりの飲み代も減少しています。

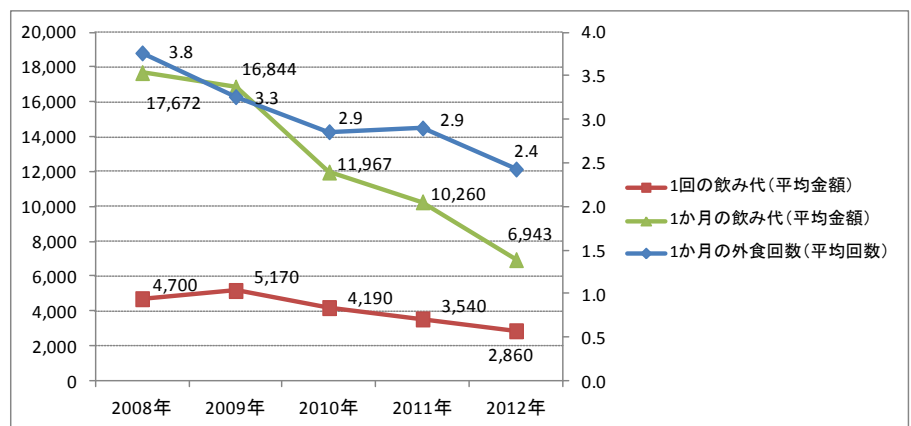
地域別では、九州・沖縄の外食回数が昨年の3.7回から1.9回と大幅に減少。また1回の飲み代では、中

国・四国が去年の3,950円から1,760円と大幅に減少（2,190円減）しており、回数も地域別では一番少ない1.6回となっています。その他の大きな特徴としては、未既婚別で未婚者の1回の飲み代が大幅に減少（970円減）しました。また、既婚者では470円減少し、子供ありでは外食回数が1.9回も減少しているため、自宅で家族とともに過ごすという「絆」を大切にしている傾向が強まっているのかもしれません。

最近では居酒屋の「お通し」に、注文していないのに代金を取られると批判が集まり、廃止に踏み切る店が増えているようです。このような従来からの商慣習を変えるくらいの強い節約意識から、今後もしばらくは飲み代の節約傾向が続きそうです。

外食の回数、飲み代		2012年4月			前年からの増減		
		1か月の外食回数(平均回数)	1回の飲み代(平均金額)	1か月の飲み代(平均金額)	1か月の外食回数(平均回数)	1回の飲み代(平均金額)	1か月の飲み代(平均金額)
<b>全体</b>		<b>2.4</b>	<b>2,860</b>	<b>6,943</b>	<b>-0.5</b>	<b>-680</b>	<b>-3,317</b>
世代別	20代	3.1	2,870	8,887	-0.7	-750	-5,032
	30代	2.2	3,140	6,870	-0.5	-600	-3,263
	40代	2.1	2,620	5,631	-0.3	-810	-2,797
	50代	2.3	2,830	6,459	-0.3	-530	-2,214
未既婚	未婚	3.1	2,600	8,144	-0.9	-970	-6,172
	既婚	1.9	3,050	5,848	-0.3	-470	-1,907
子供有無	いる	1.8	3,000	5,313	-1.9	-470	-7,564
	いない	2.9	2,760	8,075	0.8	-840	522
居住地	首都圏	3.1	2,960	9,258	-0.8	-540	-4,352
	関西圏	2.7	2,910	7,742	0.4	-530	30
	東海圏	1.7	2,810	4,736	-0.8	-250	-2,821
	北海道	2.0	2,960	5,812	-0.3	-900	-2,828
	東北						
	中部・甲信越・北陸圏	1.8	3,430	6,336	-0.5	-70	-1,894
	中国・四国圏	1.6	1,760	2,783	-0.2	-2,190	-4,281
九州・沖縄圏	1.9	2,900	5,629	-1.7	-570	-7,073	

\*1か月の飲み代は、外食回数と1回飲み代の単価をかけた単純計算です



**■□ 20代～30代の昼食&アフターファイブ事情 □■**

～ 引き続き昼食代は低価格を維持。弁当男子のブームが去る？20代～30代男性。

女性パート・アルバイト層のアフターファイブの飲み代は1回1,500円以下へ ～

今年の男女20代～30代の**昼食代**は、昨年から20円増の**460円**と、サラリーマン平均の50円安となりました。サラリーマンと同様に昨年からプラスとはなりませんが、今年も500円には届かず、昼食代は引き続き低価格で済ます傾向にあるようです。その他の傾向としては、女性パート・アルバイト層は、360円から50円増の410円と、男性パート・アルバイト層並みになりましたが、昨年に引き続き全世代最低の昼食代となっています。

20～30代の昼食代		2011年4月	2012年4月	前年からの増減
<b>全体</b>		<b>440</b>	<b>460</b>	<b>20</b>
世代別	男性会社員20～30代	480	530	50
	女性会社員20～30代	470	470	0
	男性パート・アルバイト20～30代	410	420	10
	女性パート・アルバイト20～30代	360	410	50

**昼食の内訳**はサラリーマンと同様に持参弁当の回数が増える傾向にあります。特に男性は減少幅が大きく（男性会社員は0.5回減、男性パート・アルバイト20代～30代は0.3回減）、弁当男子のブームが去りつつあるのかもしれません。また、サラリーマン層でみられた、外食回数の減少はこの層ではあまり見られず、お小遣い額が低いなか、定番となった低価格ランチを活用して、昼食くらい職場の外で楽しみたいという気持ちが表れているのかもしれません。

20～30代の昼食の内訳	2012年4月						前年からの増減						
	外食	持参弁当	購入した弁当	社員食堂	出前、デリバリーなど	その他	外食	持参弁当	購入した弁当	社員食堂	出前、デリバリーなど	その他	
<b>全体</b>	0.8	1.7	1.6	0.6	0.1	0.4	0.0	-0.3	-0.0	0.0	-	-0.2	
世代別	男性会社員20～30代	0.9	1.5	1.5	1.1	0.1	0.2	-0.1	-0.5	0.2	0.0	-	-0.1
	女性会社員20～30代	0.7	2.8	1.3	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	-0.2	-0.2	-	-0.2
	男性パート・アルバイト20～30代	0.8	1.1	1.9	0.4	0.1	0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.1	-	-0.2
	女性パート・アルバイト20～30代	0.5	2.0	1.2	0.3	0.1	0.5	0.0	-0.2	-0.0	0.0	-	-0.1

(\*平日勤務日の昼食回数の内訳)

次に、20代～30代のアフターファイブの状況です。会社帰りの**外食の回数**は昨年からの**0.3回減の2.3回**となりました。サラリーマン層よりも減り幅は少ないものの、会社帰りの外食回数は減少傾向にあります。**1回の飲み代**については、昨年からの170円減の2,290円となり、こちらも減少傾向がみられます。特にパート・アルバイト層では昨年からの引き続き1,000円台後半となっており、女性パート・アルバイト層では、外食の回数が1.2回（昨年からの0.3回減）、飲み代も1,490円（昨年からの350円減）となり、外食や飲み代にかかる費用はますます削減する傾向にあるようです。

20～30代の外食の回数、飲み代	2011年4月			2012年4月			前年からの増減			
	1か月の外食回数(平均回数)	1回の飲み代(平均金額)	1か月の飲み代(平均金額)	1か月の外食回数(平均回数)	1回の飲み代(平均金額)	1か月の飲み代(平均金額)	1か月の外食回数(平均回数)	1回の飲み代(平均金額)	1か月の飲み代(平均金額)	
<b>全体</b>	2.6	2,460	6,371	<b>2.3</b>	<b>2,290</b>	<b>5,186</b>	-0.3	-170	-1,185	
世代別	男性会社員20～30代	3.3	3,680	12,060	2.6	3,000	7,921	-0.6	-680	-4,139
	女性会社員20～30代	2.8	2,340	6,666	2.5	2,710	6,714	-0.4	370	48
	男性パート・アルバイト20～30代	2.3	1,620	3,777	2.3	<b>1,780</b>	4,122	-0.0	160	345
	女性パート・アルバイト20～30代	1.5	1,840	2,710	1.2	<b>1,490</b>	1,809	-0.3	-350	-901

\*1か月の飲み代は、外食回数と1回飲み代の単価をかけた単純計算です

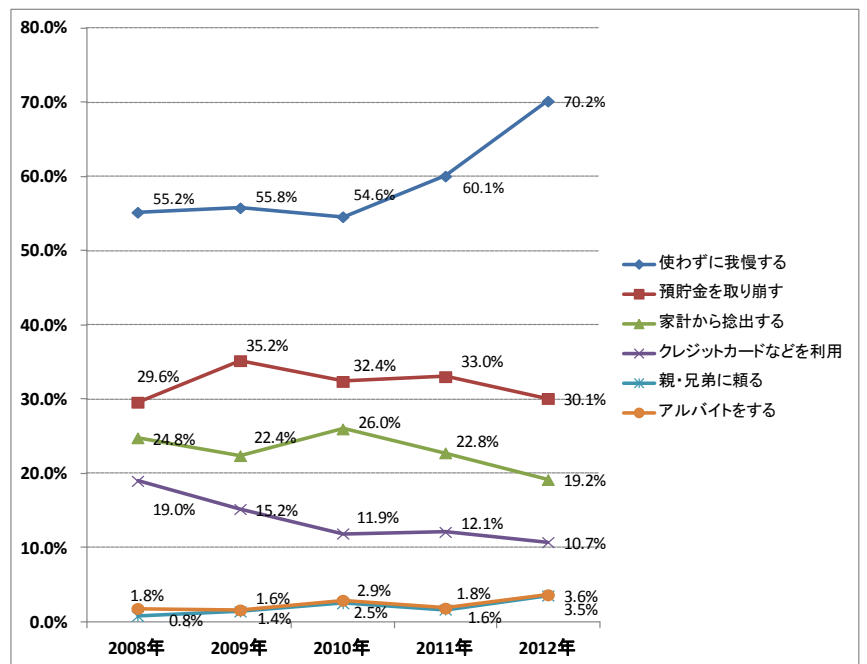
**【お小遣いが足りない場合のサラリーマンの対応方法】**  
**設問： お小遣いが足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？**

— お小遣いが足りなくなると、使わずに我慢する傾向が去年よりもさらに強まる。  
 他の手段を用いて補てんする傾向も同時に弱まり、無理な消費は控える傾向へ —

お小遣い不足時の対応	2012年4月									前年からの増減								
	使わずに我慢する	預貯金を取り崩す	家計から捻出する	クレジットカードなどを利用	親・兄弟に頼る	アルバイトをする	知人・友人から借りる	その他	使わずに我慢する	預貯金を取り崩す	家計から捻出する	クレジットカードなどを利用	親・兄弟に頼る	アルバイトをする	知人・友人から借りる	その他		
<b>全体</b>	70.2%	30.1%	19.2%	10.7%	3.5%	3.6%	0.2%	1.4%	10.1%	-2.9%	-3.6%	-1.4%	1.9%	1.8%	-0.2%	-1.1%		
世代別																		
20代	75.3%	30.1%	19.7%	13.1%	5.0%	3.9%	0.4%	1.9%	6.3%	-2.1%	-3.0%	-2.4%	3.0%	2.7%	-0.8%	-0.4%		
30代	68.2%	25.7%	23.4%	9.6%	5.4%	5.0%	0.4%	1.9%	4.6%	-6.9%	-3.0%	-2.4%	3.0%	4.2%	0.4%	-1.2%		
40代	69.3%	32.6%	18.0%	12.3%	1.9%	3.4%	0.0%	1.9%	12.4%	0.8%	-6.4%	0.2%	-0.4%	0.7%	-0.4%	0.0%		
50代	67.9%	32.1%	15.6%	8.0%	1.9%	2.3%	0.0%	0.0%	17.2%	-3.6%	-8.0%	-5.2%	1.5%	-0.4%	0.0%	-2.7%		
居住地																		
首都圏	70.8%	30.5%	21.1%	10.7%	3.4%	5.2%	0.5%	0.8%	13.2%	-3.9%	-3.1%	-5.7%	2.1%	3.4%	0.5%	-2.3%		
関西圏	72.1%	35.2%	17.6%	12.1%	3.0%	3.6%	0.0%	0.6%	6.8%	5.1%	-0.1%	3.0%	2.4%	-0.3%	0.0%	-2.0%		
東海圏	72.6%	26.6%	16.9%	10.5%	4.8%	2.4%	0.0%	4.0%	16.9%	-11.6%	-8.3%	-1.7%	3.1%	0.7%	0.0%	1.4%		
北海道	69.1%	26.4%	19.1%	7.3%	1.8%	3.6%	0.0%	1.8%	4.9%	-6.7%	-2.8%	-6.0%	-0.8%	2.3%	0.0%	-0.2%		
東北																		
中部・甲信越・北陸圏	65.3%	36.1%	11.1%	15.3%	6.9%	2.8%	0.0%	0.0%	4.5%	5.0%	-15.9%	8.5%	5.6%	1.4%	-1.4%	-4.1%		
中国・四国圏	69.8%	29.1%	17.4%	7.0%	3.5%	2.3%	0.0%	2.3%	12.1%	-7.5%	-7.6%	-0.7%	-0.4%	0.4%	-2.9%	1.4%		
九州・沖縄圏	66.7%	25.5%	24.5%	12.7%	2.9%	1.0%	0.0%	2.0%	6.0%	-0.4%	4.9%	2.9%	2.0%	1.0%	0.0%	0.2%		

(\*複数回答)

大切なお小遣いが、足りなくなってしまうから・・・そんなお小遣いの不足時の対応ですが、今年も全体の順位は変わらず、「使わずに我慢する」人が最も多くなっています。これは、2010年の54.6%から2年連続で増加し、今年70%以上を占める結果となりました。また、相対的に「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」、「クレジットカードなどを利用する」などの他の手段を用いて補てんする方法は全体的に減少の傾向にあり、無理な出費は控える傾向がさらに強まっています。



その他の傾向としては、年代別では、30代がアルバイトをする傾向が強くなり、昨年比で4.2%増えています。また、40代、50代は昨年と比べて「使わずに我慢する」傾向が強くなっています（それぞれ昨年比12.4%、17.2%増）。地域別では、首都圏、関西圏、東海圏において「使わずに我慢」している比率が70%以上と高く、特に東海圏は昨年より16.6%も増加しており、後述の「お小遣いの使い道として、今後増やしたいもの」で、貯金するお金が地域別で一番高いことから堅実派が多いのかもしれませんが。

**■□ 20代～30代のお小遣いが足りない場合のやりくり事情 □■**

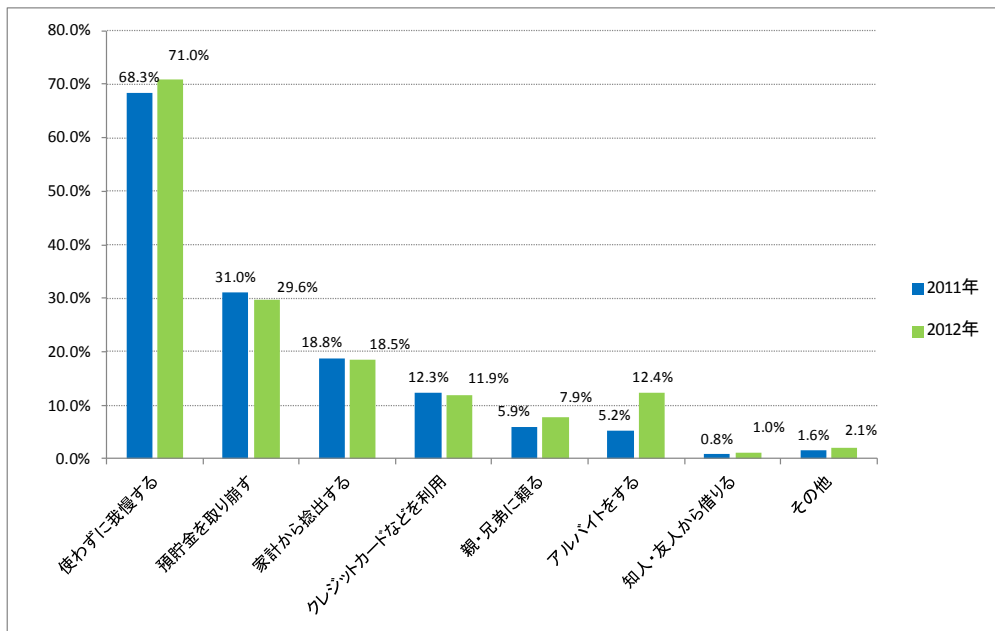
～ 基本は我慢。でも足りなくなればシフトを追加？ 汗を流して頑張るパート・アルバイト層 ～

20代～30代のお小遣いの不足時の対応は、サラリーマン層と同様に「使わずに我慢する」人が最も多く、71%を占める結果となりました。また、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」、「クレジットカードなどを利用する」などの他の手段を用いて補てんする方法についても全体的に減少の傾向にあります。サラリーマン層との大きな違いは「アルバイトをする」割合が12.4%と大きいことです（サラリーマン層は3.6%）。

20～30代の お小遣い不足時の対応		2012年4月							前年からの増減								
		使わずに我慢する	預貯金を取り崩す	家計から捻出する	クレジットカードなどを利用	親・兄弟に頼る	アルバイトをする	知人・友人から借りる	その他	使わずに我慢する	預貯金を取り崩す	家計から捻出する	クレジットカードなどを利用	親・兄弟に頼る	アルバイトをする	知人・友人から借りる	その他
<b>全体</b>		71.0%	29.6%	18.5%	11.9%	7.9%	12.4%	1.0%	2.1%	2.7%	-1.4%	-0.3%	-0.5%	1.9%	7.1%	0.2%	0.5%
世代別	男性会社員20～30代	71.7%	27.9%	21.5%	11.3%	5.2%	4.4%	0.4%	1.9%	5.5%	-4.5%	0.0%	-0.3%	3.3%	3.5%	-0.2%	-0.8%
	女性会社員20～30代	63.4%	40.7%	23.9%	15.7%	5.2%	4.9%	0.4%	2.2%	1.4%	-0.4%	-0.9%	0.2%	1.3%	2.9%	0.4%	0.3%
	男性パート・アルバイト20～30代	76.9%	24.7%	9.6%	10.3%	11.3%	21.4%	2.3%	2.7%	1.5%	-1.5%	-0.3%	-0.3%	2.0%	13.1%	0.6%	1.9%
	女性パート・アルバイト20～30代	65.4%	31.6%	24.4%	12.0%	9.0%	17.7%	0.4%	1.1%	1.1%	3.7%	-0.8%	-1.9%	-0.3%	6.8%	0.0%	0.4%

（\*複数回答）

「アルバイトをする」割合は、特にパート・アルバイト層で多く、前回より男性が13.1%増の21.4%、女性が6.8%増の17.7%となり、男性においては「預貯金を取り崩す」（24.7%）に続く高い選択率となっています。なかなか増えないお小遣いの状況のなか、使わずに我慢しながらも、どうしても必要になればアルバイトを追加して不足分を補てんするなど、汗を流して頑張っている姿が目に見えそうです。



【サラリーマンのお小遣いの使い道 ～必要不可欠なもの～】

設問： お小遣いの使い道として、必要不可欠なものは何ですか？

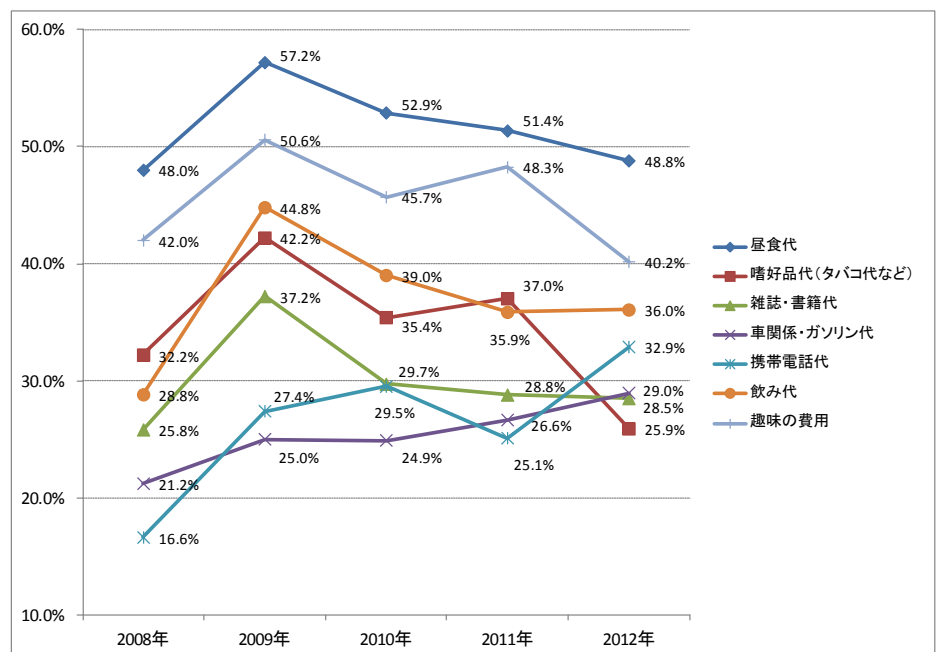
— お小遣いの使い道で必要不可欠なものの1位は「昼食代」、2位は「趣味の費用」で前回と変わらず。嗜好品は3位から7位に低下し、前回7位だった携帯電話代が4位に —

お小遣いの使い道のうち必要不可欠なものとしては、昼食代(48.8%)が最多で、次に趣味の費用(40.2%)、飲み代(36%)と続いています。前回3位だった嗜好品代(37%⇒25.9%)は今年7位まで順位を下げ、7位だった携帯電話代(25.1%→32.9%)は4位まで順位を上げています。特に20代では携帯電話代を必要不可欠としている割合が昨年比15.3%増の51.4%となり、近年のスマートフォンの普及に伴って上がっているのかもしれませんが。嗜好品の低下については、その代表格であるタバコは、2006年からは禁煙外来の保険適用も開始して禁煙志向が定着しつつあり、喫煙者数は右肩下がりに減っています。また、お酒においてもビールや発泡酒、新ジャンル等を含めた国内出荷数量も同様に減少が続き、これが大きく影響しているのかもしれません。

お小遣いの使い道 ～必要不可欠なもの～	2012年4月									前年からの増減									
	昼食代	嗜好品代 (タバコ代など)	雑誌・書籍代	車関係・ガソリン代	携帯電話代	飲み代	ファッション費用 (洋服・くつ・アクセサリーなど)	趣味の費用	家族への気配り (飲食代、プレゼントなど)	昼食代	嗜好品代 (タバコ代など)	雑誌・書籍代	車関係・ガソリン代	携帯電話代	飲み代	ファッション費用 (洋服・くつ・アクセサリーなど)	趣味の費用	家族への気配り (飲食代、プレゼントなど)	
全体	48.8%	25.9%	28.5%	29.0%	32.9%	36.0%	16.5%	40.2%	17.4%	-2.6%	-11.1%	-0.3%	2.3%	7.8%	0.2%	1.0%	-8.1%	0.5%	
世代別																			
20代	54.1%	24.3%	28.2%	32.4%	51.4%	36.3%	23.6%	44.0%	13.9%	3.3%	-10.6%	1.8%	-1.7%	15.3%	1.4%	1.5%	-6.0%	-0.4%	
30代	50.6%	26.4%	27.6%	28.4%	34.1%	35.2%	19.9%	34.1%	19.9%	2.5%	-10.0%	-4.6%	7.0%	8.9%	1.9%	4.0%	-14.7%	0.5%	
40代	46.4%	25.3%	32.6%	27.6%	24.1%	34.5%	13.8%	39.5%	18.8%	-4.4%	-13.5%	5.0%	0.8%	2.8%	0.8%	0.2%	-7.0%	0.2%	
50代	44.3%	27.5%	25.6%	27.5%	22.1%	38.2%	8.8%	43.1%	16.8%	-11.5%	-10.5%	-3.5%	3.1%	4.3%	-3.3%	-1.7%	-4.5%	1.7%	
居住地																			
首都圏	56.0%	26.0%	28.1%	20.8%	34.6%	38.8%	18.0%	39.1%	19.8%	-8.4%	-9.9%	-1.3%	3.8%	7.4%	-3.9%	-0.3%	-3.4%	4.9%	
関西圏	56.4%	27.9%	30.3%	18.8%	33.9%	36.4%	19.4%	36.4%	17.0%	4.7%	-8.7%	-0.4%	-2.8%	3.9%	-2.2%	2.4%	-14.0%	-3.3%	
東海圏	45.2%	16.1%	37.1%	38.7%	31.5%	37.9%	20.2%	46.8%	12.9%	-0.1%	-11.7%	8.4%	2.2%	10.6%	15.3%	2.8%	-8.9%	-9.7%	
北海道	31.8%	35.5%	22.7%	39.1%	33.6%	30.0%	14.5%	36.4%	19.1%	-7.9%	-2.3%	-4.4%	1.3%	6.5%	5.5%	2.6%	-10.7%	5.2%	
東北																			0.0%
中部・甲信越・北陸圏	40.3%	23.6%	34.7%	40.3%	33.3%	36.1%	11.1%	44.4%	13.9%	-8.4%	-16.9%	7.7%	6.5%	13.1%	-1.7%	-2.4%	-2.9%	-3.7%	
中国・四国圏	44.2%	27.9%	23.3%	40.7%	33.7%	29.1%	15.1%	44.2%	12.8%	3.8%	-19.2%	-9.4%	16.7%	12.6%	-4.6%	2.6%	-11.6%	-4.5%	
九州・沖縄圏	42.2%	23.5%	22.5%	35.3%	24.5%	35.3%	8.8%	40.2%	18.6%	-5.2%	-14.0%	-1.6%	1.4%	4.0%	-6.7%	-3.7%	-9.8%	3.4%	

(※複数回答。上位10位までを抜粋して掲載。)

その他の特徴として、地域別では、関西圏で車関係(18.8% 全体 29%)、九州・沖縄ではファッション費用(8.8% 全体 16.5%)と職場の部下への気配り(2% 全体 8.9%)と割合が低い傾向がみられます。



(※上位7位までを抜粋して掲載。)

**【サラリーマンのお小遣いの使い道 ～今後お金をかけたいもの～】**
**設問： お小遣いの使い道として、今後増やしたいものは何ですか？**

— 今後お金をかけたいもののトップは「貯金したいお金」(38.8%)。前回から選択率が上がったのは、健康・リラクセスにけるお金(2.8%増)、国内旅行にけるお金(2.3%増)、海外旅行にけるお金(1.5%増) —

節約が続いている状況で、今後のお小遣いにおける消費意向はどうなっているのでしょうか？今後お金をかけたいものとしては、前回調査と同様に、貯蓄するお金(38.8%)が最多で、趣味にけるお金(25.7%)、国内旅行にけるお金(22%)と続いています。飲み代など交際・つきあいにかけるお金は昨年の9位から16位まで順位をさげました(11.7%⇒8.3%)が、その他は全体的に大きな順位の変動はありません。前回から選択率が上がったのは、健康・リラクセスにけるお金(2.8%増)、国内旅行にけるお金(2.3%増)、海外旅行にけるお金(1.5%増)となっています。飲み代など抑えられるところは抑えつつ、健康・リラクセスにけるお金や、国内・海外旅行にけるお金への消費意向が強まっていることが見られ、生活防衛をしつつも、自分や家族のためになるものは支出していきたいという様子が見られます。

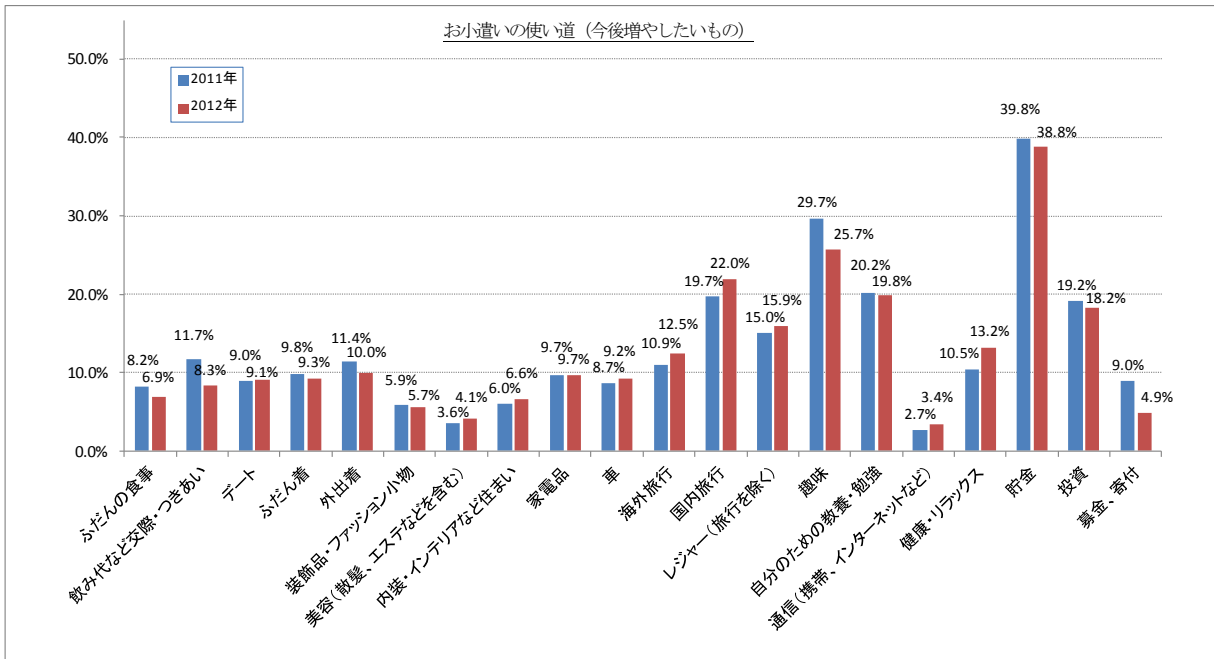
お小遣いの使い道 今後増やしたいもの	2012年4月										前年からの増減									
	外出着にけるお金	家電品にけるお金	海外旅行にけるお金	国内旅行にけるお金	レジャーにけるお金(旅行を除く)	趣味にけるお金	自分のための教養・勉強にけるお金	健康・リラクセスにけるお金	貯金するお金	投資にけるお金	外出着にけるお金	家電品にけるお金	海外旅行にけるお金	国内旅行にけるお金	レジャーにけるお金(旅行を除く)	趣味にけるお金	自分のための教養・勉強にけるお金	健康・リラクセスにけるお金	貯金するお金	投資にけるお金
全体	10.0%	9.7%	12.5%	22.0%	15.9%	25.7%	19.8%	13.2%	38.8%	18.2%	-1.5%	0.0%	1.5%	2.3%	0.9%	-4.0%	-0.3%	2.8%	-1.0%	-1.0%
世代別																				
20代	13.1%	7.7%	12.4%	20.8%	13.6%	26.3%	26.6%	11.6%	45.9%	22.4%	-6.6%	-2.4%	-2.0%	-3.6%	-4.7%	-5.9%	1.1%	0.7%	-1.7%	-2.4%
30代	10.7%	11.1%	12.3%	24.5%	19.5%	22.6%	16.9%	13.8%	44.1%	22.2%	-0.5%	1.0%	0.6%	3.6%	-1.0%	-7.2%	-3.7%	6.4%	-1.3%	-3.0%
40代	9.2%	10.3%	13.8%	21.1%	15.3%	26.4%	21.8%	14.6%	37.9%	16.5%	-0.1%	1.8%	4.5%	5.2%	4.1%	-2.2%	0.1%	1.8%	0.7%	1.7%
50代	6.9%	9.5%	11.5%	21.4%	15.3%	27.5%	14.1%	13.0%	27.5%	11.8%	1.4%	-0.5%	2.9%	3.9%	5.2%	-0.4%	1.3%	2.1%	-1.6%	-0.2%
居住地																				
首都圏	10.2%	9.1%	15.4%	22.7%	14.8%	26.8%	19.5%	13.8%	34.1%	17.2%	-1.3%	0.1%	0.8%	1.9%	-1.9%	-3.2%	1.0%	3.0%	-7.4%	-4.5%
関西圏	13.9%	9.1%	13.3%	24.8%	13.9%	26.7%	21.2%	10.9%	35.8%	16.4%	-0.4%	-1.4%	2.2%	0.0%	-5.7%	-2.7%	2.3%	1.8%	-1.5%	-6.5%
東海圏	10.5%	13.7%	12.9%	22.6%	14.5%	26.6%	17.7%	19.4%	47.6%	25.0%	-0.8%	2.4%	0.7%	0.8%	-4.6%	-1.2%	-7.5%	5.4%	5.8%	3.3%
北海道	6.4%	10.0%	7.3%	24.5%	17.3%	23.6%	14.5%	12.7%	46.4%	20.0%	-6.2%	-3.2%	-0.7%	6.7%	4.7%	-8.2%	-8.6%	2.1%	9.9%	5.4%
東北											0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中部・甲信越・北陸圏	8.3%	8.3%	5.6%	15.3%	12.5%	23.6%	9.7%	36.1%	15.3%	0.2%	0.2%	-1.2%	-3.6%	1.7%	-7.5%	6.0%	-7.8%	-7.1%	5.8%	
中国・四国圏	9.3%	4.7%	12.8%	24.4%	23.3%	24.4%	23.3%	10.5%	41.9%	16.3%	-1.3%	-2.1%	6.1%	10.0%	8.8%	-6.4%	5.0%	4.7%	0.5%	0.9%
九州・沖縄圏	7.8%	12.7%	9.8%	13.7%	19.6%	23.5%	21.6%	12.7%	42.2%	18.6%	-1.1%	4.7%	0.0%	-1.5%	13.4%	-2.4%	-1.6%	5.6%	4.7%	-1.9%

(\*複数回答。上位10位までを抜粋して掲載)

その他、年代別では、20代は年代別で最も貯金するお金(45.9% 全体平均38.8%)と、投資にけるお金(22.4% 全体平均18.2%)への意向が強く、また、自分のための教養・勉強にけるお金(26.6% 全体平均19.8%)への意向が強くなっています。貯蓄や資産運用をしながら、自分の教育投資もしていくという、自分の将来に向けた投資の意向が見られます。

40代、50代では、20代に比べて投資や貯金の傾向が弱まり、その代わりに、趣味にけるお金への投資意向(それぞれ26.4%、27.5%)が強くなっています。また、昨年からの増加傾向としては、海外旅行にけるお金、国内旅行にけるお金、レジャーにけるお金(旅行を除く)への投資意向が、4-5%ほど増加しており、物品ではなく思い出づくりなどの無形のものに投資意欲があるのかもしれませんが。

地域別の特徴としては、関西では普段着(13.9% 全体平均9.3%)や外出着(13.9% 全体平均10%)への投資傾向が強く、東海圏では家電品(13.7% 全体平均9.7%)や車(12.9% 全体平均9.2%)、健康・リラクセス(19.4% 全体平均13.2%)への投資意向が強い一方、貯金(47.6% 全体平均38.8%)や投資(25% 全体平均18.2%)の傾向も強く、将来に向けた投資意向も見られます。中部・甲信越・北陸圏では、海外旅行(5.6% 全体平均12.5%)や国内旅行(15.3% 全体平均22%)への投資意欲が弱く、美容にけるお金に関しては昨年に引き続き唯一0%となっています。



(\*昨年と比較できる項目について全て掲載)

**■□ 20代～30代 お小遣いの使い道事情 ～必要不可欠なもの～ □■**

～ 必要不可欠な使い道として必要性が高まる携帯電話代と、嗜好品離れの進む20代～30代  
 また、家族への配慮も忘れない女性パート・アルバイト層 ～

今年の男女20代～30代における、お小遣いのうち**必要不可欠なもの**は、昼食代が最多(45.8%)で、次に携帯電話(43.2%)、趣味の費用(39.3%)と続いています。サラリーマン層と比べると、携帯電話(2位 サラリーマンでは4位)や、ファッション費用(4位 サラリーマンでは10位)、身だしなみのための費用(5位 サラリーマン12位)が上位に入っており、サラリーマン層でも近年のスマートフォンの普及で携帯電話代の毎月の利用料金が増えたという声を良く聞くようになりましたが、特に若者層は携帯電話代がお小遣いに占める割合が高いのか、その傾向が強く表れていることがわかります。

その他、全体の傾向としては、嗜好品や趣味の費用が昨年より大幅にダウンしており、特に嗜好品代は昨年33.5%から今年20.3%となり、約4割減少しています。

20～30代のお小遣いの使い道 ～必要不可欠なもの～		2012年4月											
		昼食代	嗜好品代 (タバコ代 など)	喫茶代(カ フェ代な ど)	雑誌・書 籍代	車関係・ガ ソリン代	携帯電話 代	飲み代	ファッショ ン費用(洋 服・くつ・ア クセサ リーなど)	身だしな みのため の費用 (美容・コ スメ・散髪 代など)	趣味の費 用	パソコン 関連、通 信料(モバ イル(携帯 電話やス martフォ ンなど)を 除く)	家族への 気配り(飲 食代、プレ ゼントな ど)
<b>全体</b>		45.8%	20.3%	17.7%	27.6%	25.0%	43.2%	27.5%	33.6%	31.0%	39.3%	20.5%	15.4%
世代別	男性会社員20～30代	52.3%	25.4%	16.3%	27.9%	30.4%	42.7%	35.8%	21.7%	18.1%	39.0%	21.3%	16.9%
	女性会社員20～30代	42.9%	14.2%	26.5%	30.6%	22.4%	51.5%	32.1%	63.1%	62.3%	39.6%	14.6%	18.7%
	男性パート・アルバイト20～30代	46.3%	22.8%	12.2%	27.7%	25.0%	44.0%	22.2%	20.3%	15.7%	43.0%	29.1%	9.6%
	女性パート・アルバイト20～30代	35.3%	11.7%	22.2%	24.1%	16.9%	34.2%	16.9%	53.4%	54.9%	32.0%	8.3%	20.7%
		前年からの増減											
<b>全体</b>		2.0%	-13.2%	4.3%	-0.7%	-0.1%	5.1%	3.5%	3.5%	0.3%	-6.9%	-	1.6%
世代別	男性会社員20～30代	2.9%	-10.3%	0.6%	-1.4%	2.7%	12.1%	1.7%	2.7%	-5.4%	-10.4%	-	0.1%
	女性会社員20～30代	-0.1%	-21.1%	7.9%	-0.8%	-4.4%	6.5%	4.6%	3.8%	11.2%	4.7%	-	3.2%
	男性パート・アルバイト20～30代	0.5%	-4.4%	4.5%	0.8%	-0.5%	-1.0%	6.1%	5.2%	-5.3%	-11.0%	-	2.4%
	女性パート・アルバイト20～30代	5.5%	-28.3%	7.1%	-2.3%	-0.1%	1.7%	1.0%	0.3%	10.7%	-3.3%	-	1.7%

(※複数回答。上位12位までを抜粋して掲載)

また、会社員、パート・アルバイトでの働き方による大きな違いはなく、男女差による特徴が表れています。嗜好品代や遊覧費、パソコン関連の通信費用は男性が多く、ファッション費用、身だしなみのための費用、家族への気配りは女性が多くなっています。特に家族への気配りは女性パート・アルバイト層が多く世代別で唯一20%を超えており、自分のファッションや美容だけではなく、同時に家族も大切にできる姿が目に見えてきます。



■□ 20代～30代 お小遣いの使い道事情 ～今後お金をかけたいもの～ □■

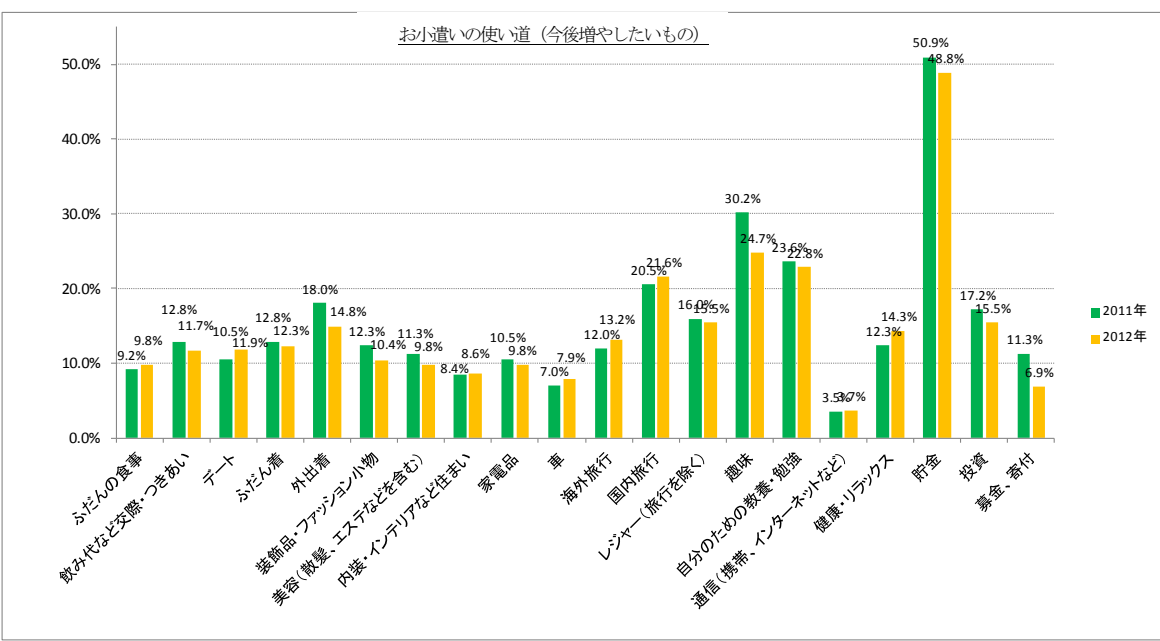
～ 趣味の充実と自分の教養に投資をしたい男性パート・アルバイト層。  
 ファッションや美容にお金をかけたい一方、募金もしっかり忘れない女性パート・アルバイト層 ～

男女20代～30代がお小遣いの使い道のうち、今後お金をかけたいものは何でしょうか？昨年に引き続き、貯金するお金（48.8%）がトップで、趣味にかけるお金（24.7%）、自分のための教養・勉強にかけるお金（22.8%）と続いています。全体的に昨年より選択率が下がっている中でも、普段の食事にかかる費用（0.6%アップ）、デートにかけるお金（1.3%増）海外旅行にかけるお金（1.2%増）、国内旅行にかけるお金（1.1%増）がそれぞれ増加しています。

20～30代のお小遣いの使い道 ～今後増やしたいもの～		2012年4月															
		ふだんの食事に かけるお金	飲み代など交際・つきあいに かけるお金 (デートは除く)	デートに かけるお 金	ふだん着 にかける お金	外出着に かけるお 金	装飾品・ ファッション 小物に かけるお 金	美容にか けるお金 (散髪、 エステな どを含む)	家電品に かけるお 金	海外旅行 にかける お金	国内旅行 にかける お金	レジャー にかける お金(旅 行を除く)	趣味にか けるお金	自分のた めの教 養・勉強 にかける お金	健康・リ ラックス にかける お金	貯金する お金	投資にか けるお金
<b>全体</b>		9.8%	11.7%	11.9%	12.3%	14.8%	10.4%	9.8%	9.8%	13.2%	21.6%	15.5%	24.7%	22.8%	14.3%	48.8%	15.5%
世代別	男性会社員20～30代	6.2%	10.0%	11.5%	9.4%	11.9%	7.5%	4.8%	9.4%	12.3%	22.7%	16.5%	24.4%	21.7%	12.7%	45.0%	22.3%
	女性会社員20～30代	6.3%	10.4%	8.2%	12.7%	16.0%	14.6%	14.9%	5.2%	23.1%	23.5%	13.4%	17.9%	22.0%	17.2%	60.4%	13.8%
	男性パート・アルバイト20～30代	14.9%	14.9%	16.8%	14.3%	15.1%	9.0%	8.6%	12.2%	8.4%	19.3%	13.4%	29.8%	25.8%	13.6%	42.4%	14.5%
	女性パート・アルバイト20～30代	10.2%	9.8%	6.4%	13.5%	18.8%	14.7%	16.9%	10.5%	14.3%	22.2%	19.5%	22.2%	19.9%	16.2%	57.1%	5.6%
<b>全体</b>		前年からの増減															
世代別	男性会社員20～30代	0.6%	-1.1%	1.3%	-0.5%	-3.2%	-1.9%	-1.5%	-0.7%	1.2%	1.1%	-0.5%	-5.4%	-0.8%	-	-2.1%	-1.7%
	女性会社員20～30代	-2.4%	-3.4%	-1.4%	-3.4%	-3.6%	-1.6%	-0.4%	-0.7%	0.0%	-2.8%	-6.6%	-1.3%	-	-	-1.5%	-2.7%
	男性パート・アルバイト20～30代	-3.7%	-0.4%	0.1%	1.8%	-2.6%	-1.7%	-6.4%	-1.0%	6.9%	-2.8%	-2.8%	-5.7%	-5.1%	-	0.8%	3.0%
	女性パート・アルバイト20～30代	4.3%	1.7%	4.0%	1.4%	-2.5%	-2.6%	1.0%	-3.3%	-0.3%	4.2%	1.2%	-5.2%	3.7%	-	-5.4%	-4.1%

(\*複数回答。上位16位までを抜粋して掲載。)

世代間での特徴としては、男性パート・アルバイト層は、貯金だけではなく、趣味を充実させ、教養や勉強への自己投資をしつつも、国内旅行やデートにもお金をかけていきたいとする傾向が見られます。また、女性パート・アルバイト層では、洋服などのファッションや美容にも投資しつつ、近年の山ガールなどの流行にあるように趣味における男女格差がなくなってきたことを受けてか、国内旅行やレジャー、趣味にも投資していきたいとする傾向が見られます。また、この層では唯一、募金など寄付にかけるお金が10%を超えており(10.9% サラリーマン平均4.9%)自由になるお小遣いが限られている中でも、ボランティア精神を忘れていないことがわかります。



(\*昨年と比較できる項目について全て掲載。)